

(資料1)

四国森林管理局管内の木材価格等の推移
(最近の動向)

令和4年9月29日
四国森林管理局

目 次

I	管内における主な原木市場・共販所の状況	
1	丸太価格の推移	1
2	丸太取扱量の推移	5
II	管内における製材等の状況	
1	製材用素材の入荷量及び在庫量の推移	7
2	製材品の出荷量及び在庫量の推移	8
3	製材品価格の推移	9
III	全国の丸太価格の動向	10
IV	住宅着工戸数	
1	四国における木造住宅着工戸数の推移	12
2	全国の住宅着工戸数の推移	13

管内における主な原木市場・共販所の状況

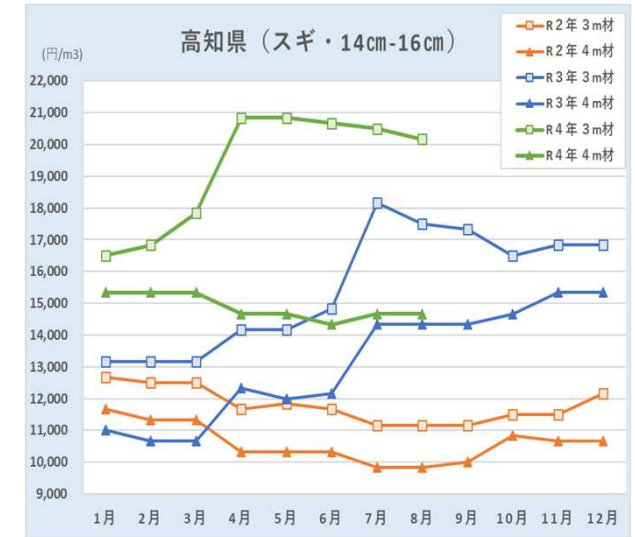
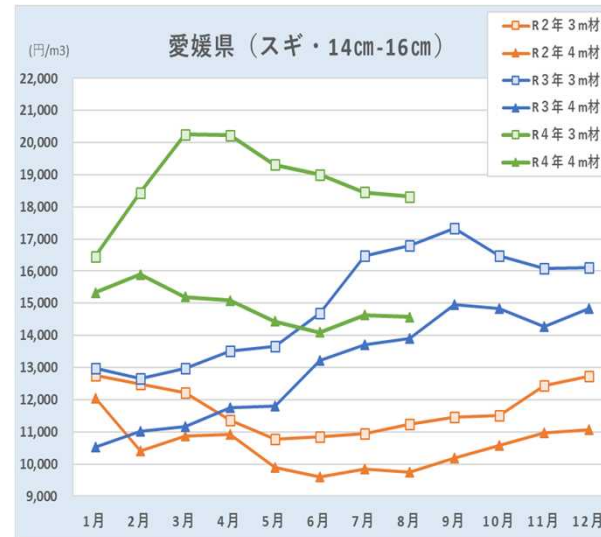
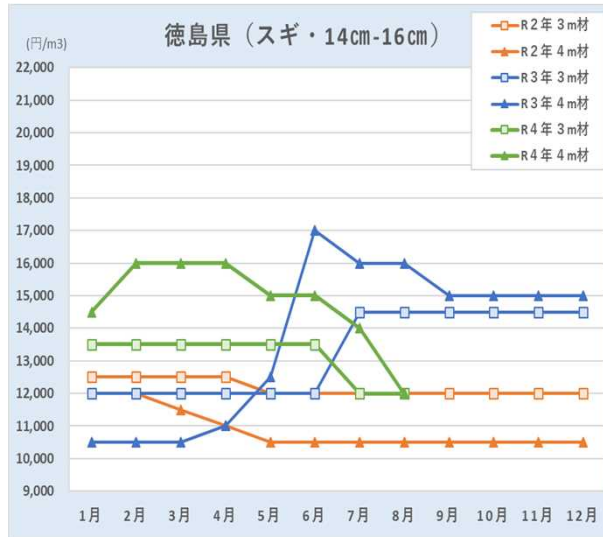
1-(1) 丸太価格の推移 (スギ、径14cm~16cm 長3m材・4m材)

- 令和3年は、春先からの原木需要の高まりも秋口には一端落ち着いたが、一般的に高い水準で推移した。
- 本年は、愛媛県、高知県では、年明けから4月にかけて3m材の引き合いが再び良くなり高騰、その後は軟調相場に移行したものの高い水準が続く。4m材は、昨年秋の値上がり以降、概ね横這いで推移。
- 徳島県は、昨年6月頃に価格が大幅に上昇、その後は落ち着きつつも堅調な相場を維持していたが、本年7月頃からは弱気配となり、8月には令和2年同期の水準まで下落。
- 8月のスギ丸太価格は、前年同月比75%から115%で推移。

○ 8月のスギ丸太価格

(円/m³)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	3m材	12,000	14,500	83%
	4m材	12,000	16,000	75%
愛媛県	3m材	18,317	16,783	109%
	4m材	14,567	13,903	105%
高知県	3m材	20,167	17,500	115%
	4m材	14,667	14,333	102%



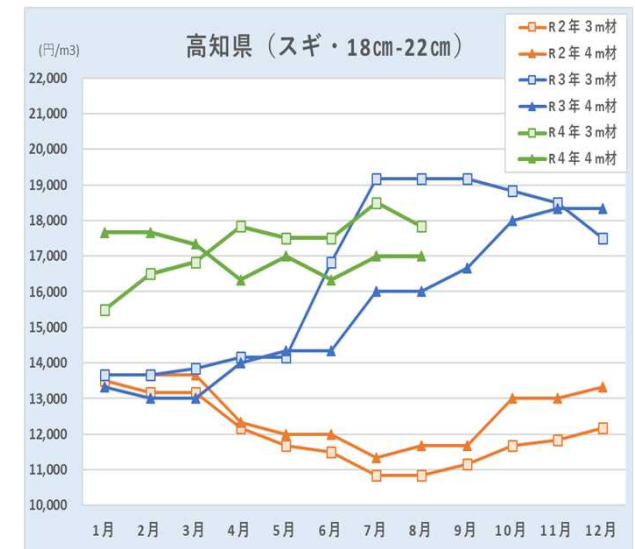
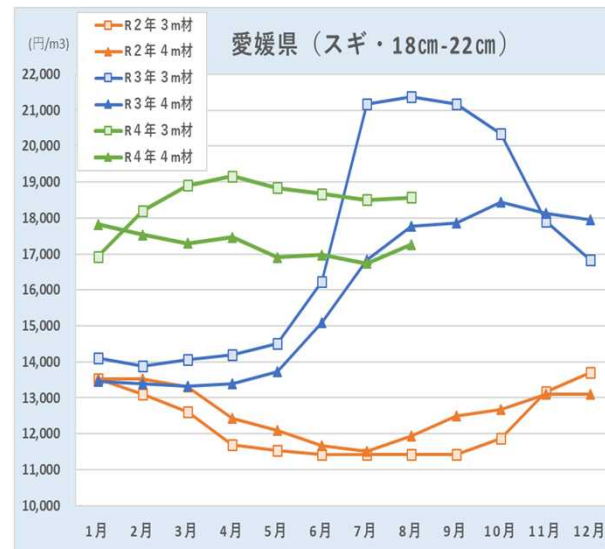
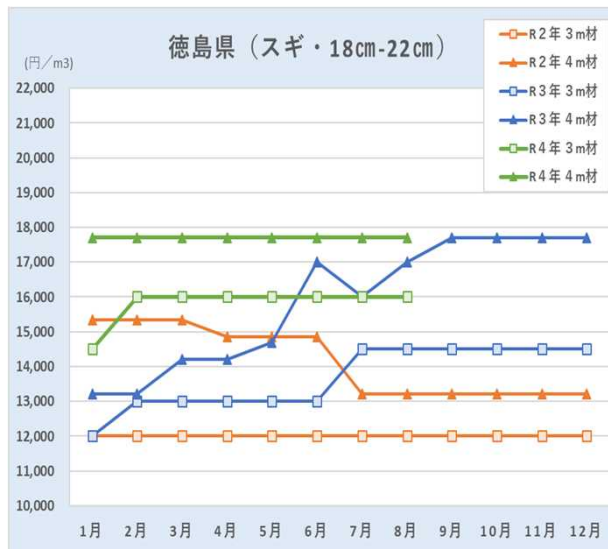
1-(2)丸太価格の推移 (スギ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 令和3年は、中目丸太も春先からの原木需要の高まりから、急騰した3m材については秋口には大きく下落したが、全般的には高い水準で推移した。
- 本年は、愛媛県、高知県では、年明けから4月にかけて3m材の引き合いが再び良くなり、その後の相場も高い水準が続く。4m材は、昨年秋から小さな動きはあるものの概ね横這いで推移。
- 徳島県は、昨年6月頃から4m材を中心に価格が上昇、その後も保合で推移したが、本年2月には3m材も続伸し、その後は横這いで推移。
- 8月のスギ丸太価格は、前年同月比87%から110%で推移。

○ 8月のスギ丸太価格

(円/m³)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	3m材	16,000	14,500	110%
	4m材	17,700	17,000	104%
愛媛県	3m材	18,567	21,367	87%
	4m材	17,263	17,763	97%
高知県	3m材	17,833	19,167	93%
	4m材	17,000	16,000	106%



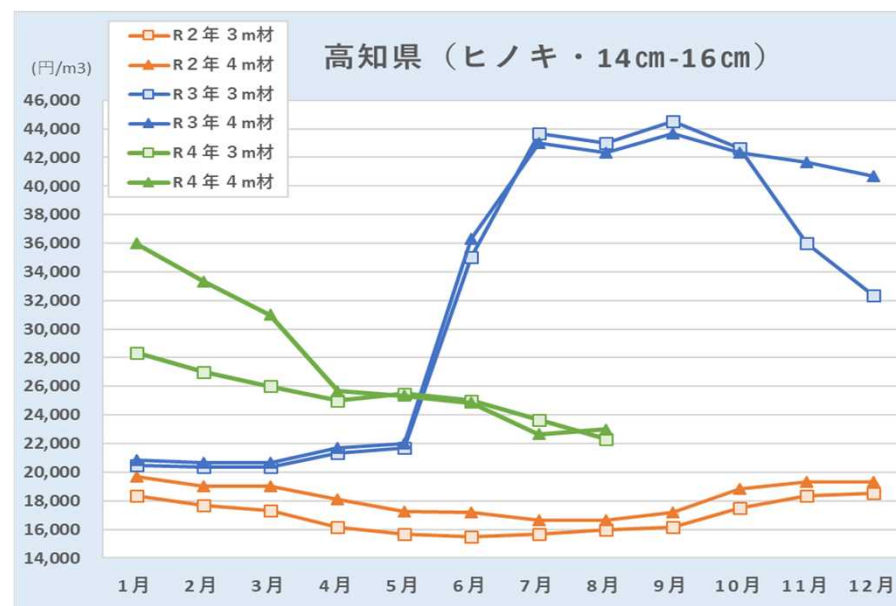
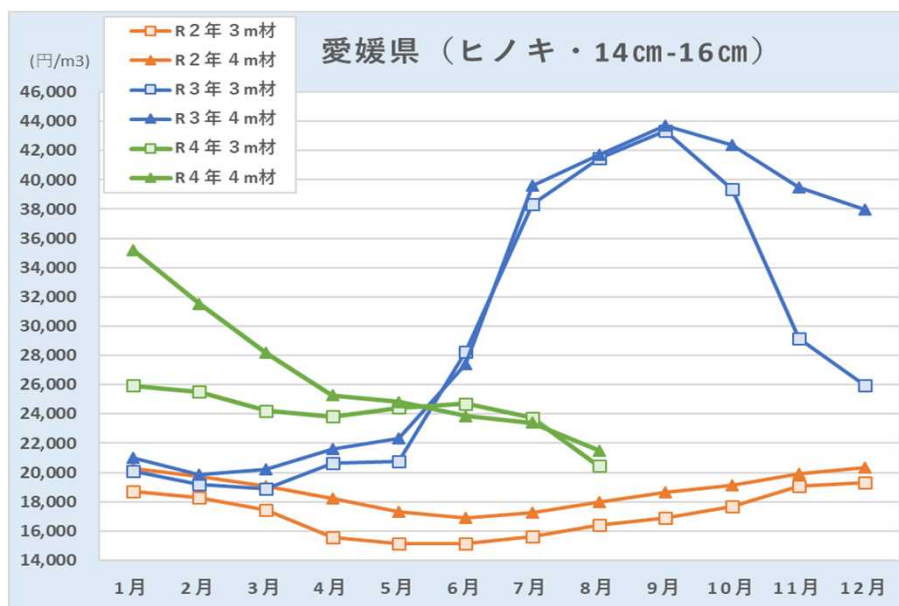
1-(3)丸太価格の推移 (ヒノキ、径14cm~16cm 長3m材・4m材)

- 令和3年は、構造用丸太を中心に4月頃から買い方の旺盛な引き合いがあり、特に6~9月にかけては価格が高騰、9月頃をピークに引き合いが弱まり、特に3m材の下落が顕著であったが、全般的には高い水準で推移した。
- 本年は、年明け直後から4m材の下落も顕著となり、4月には3m材と4m材の価格差はなくなったものの一時下げ止まり感も見られたが、8月には再び軟化し、愛媛県、高知県ともに下落傾向で推移。
- 8月のヒノキ丸太価格は、対前年比49%から54%で推移。

○ 8月のヒノキ丸太価格

(円/m³)

県	長級	当月	前年 同月	前年 同月比
愛媛県	3m材	20,450	41,457	49%
	4m材	21,500	41,733	52%
高知県	3m材	22,333	43,000	52%
	4m材	23,000	42,333	54%



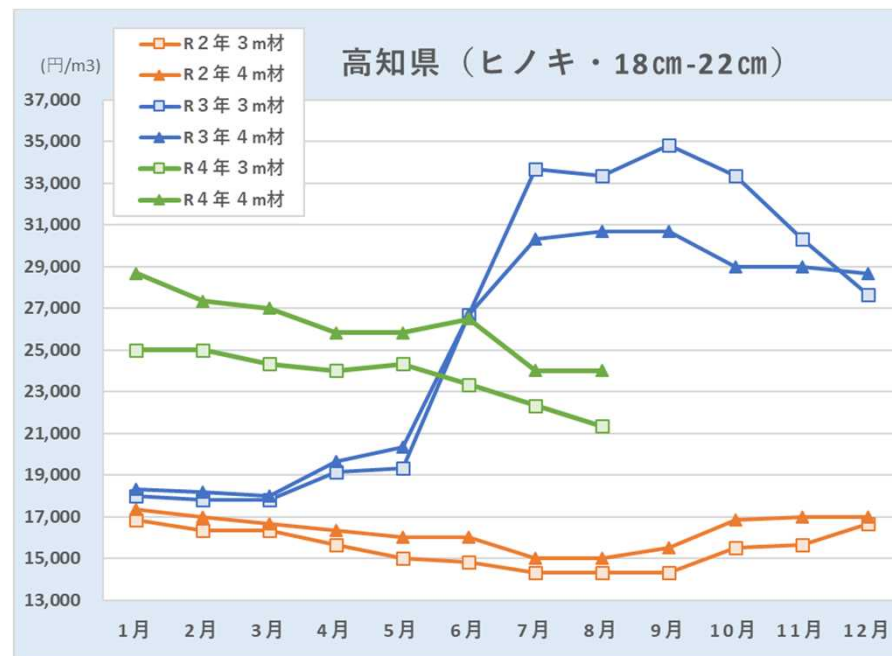
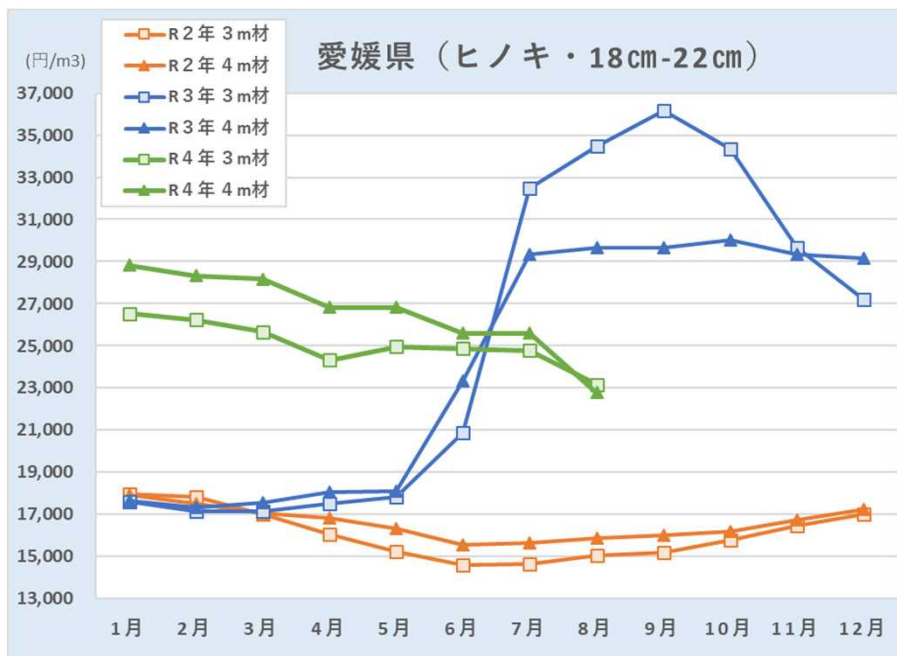
1-(4)丸太価格の推移 (ヒノキ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 令和3年は、中目材も柱適寸丸太と同じく、昨年4月頃からの旺盛な引き合いがあり、特に6~9月にかけて価格が高騰したが、9月頃をピークに引き合いが弱まり、特に3m材の下落が顕著であったが、全般的には高い水準で推移した。
- 本年に入って、愛媛県、高知県ともに更に軟化しており、7月からは一段と下げ幅が拡大傾向にある。
- 8月のヒノキ丸太価格は、対前年比64%から78%で推移。

○ 8月のヒノキ丸太価格

(円/m³)

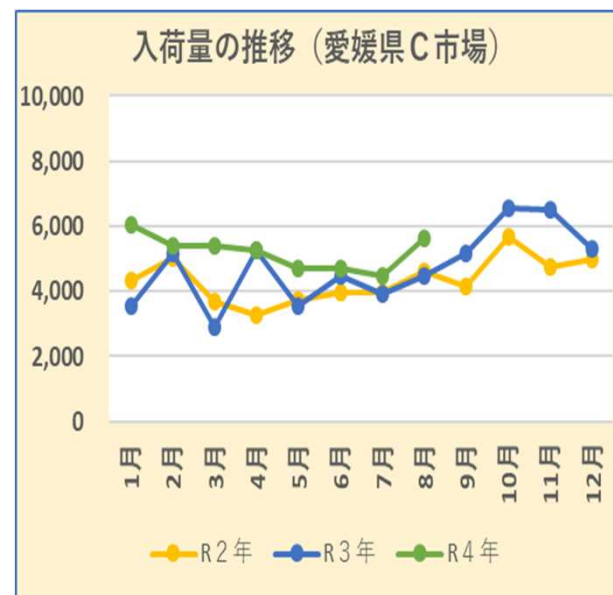
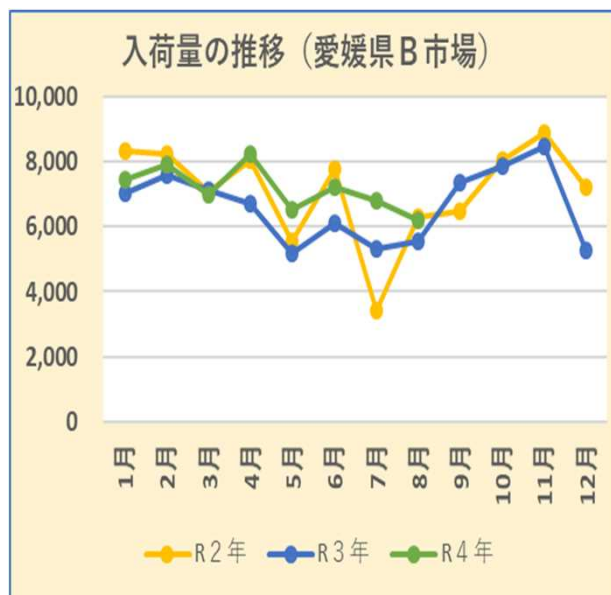
県	長級	当月	前年同月	前年同月比
愛媛県	3m材	23,167	34,467	67%
	4m材	22,767	29,667	77%
高知県	3m材	21,333	33,333	64%
	4m材	24,000	30,667	78%



Ⅰ 管内における主な原木市場・共販所の状況

2-(1) 丸太取扱量の推移（愛媛県）

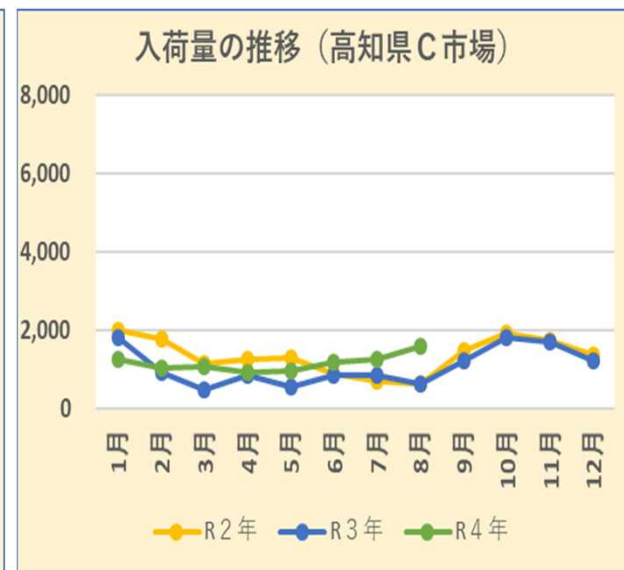
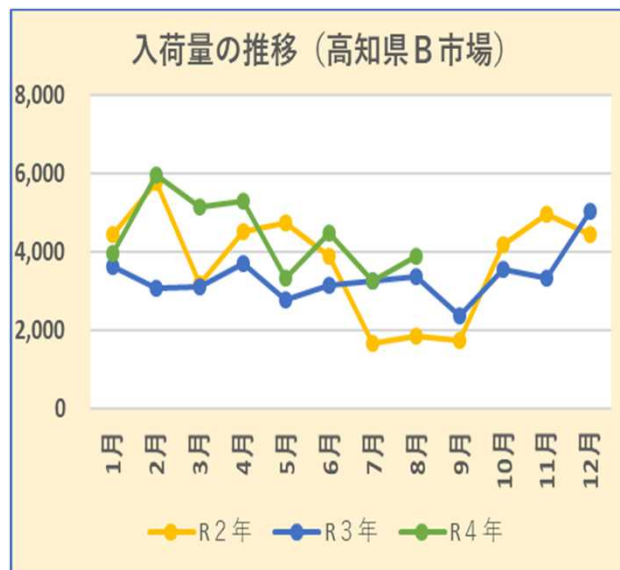
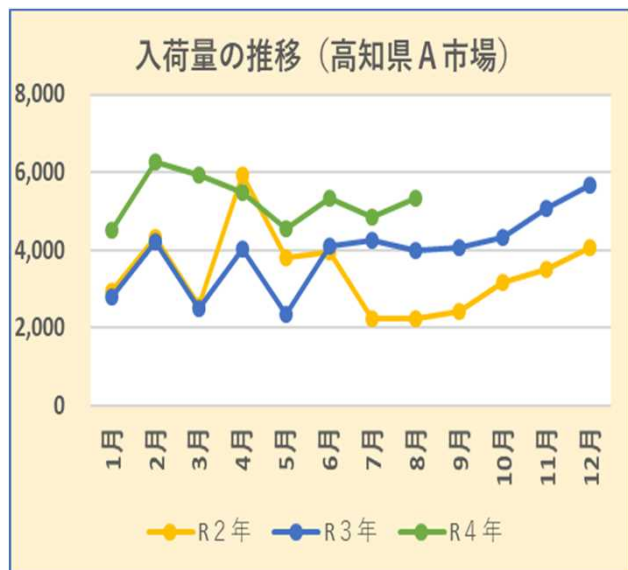
- 天候にも恵まれ出材は順調、入荷は例年に比べ増加傾向。
- 9月も天候が良ければ、出材の増加を予想。
- 引き取り状況は、ヒノキは供給過多により荷動き鈍化。スギは全体に不足気味で荷動き良好。



四国森林管理局調べ

2-(2) 丸太取扱量の推移（高知県）

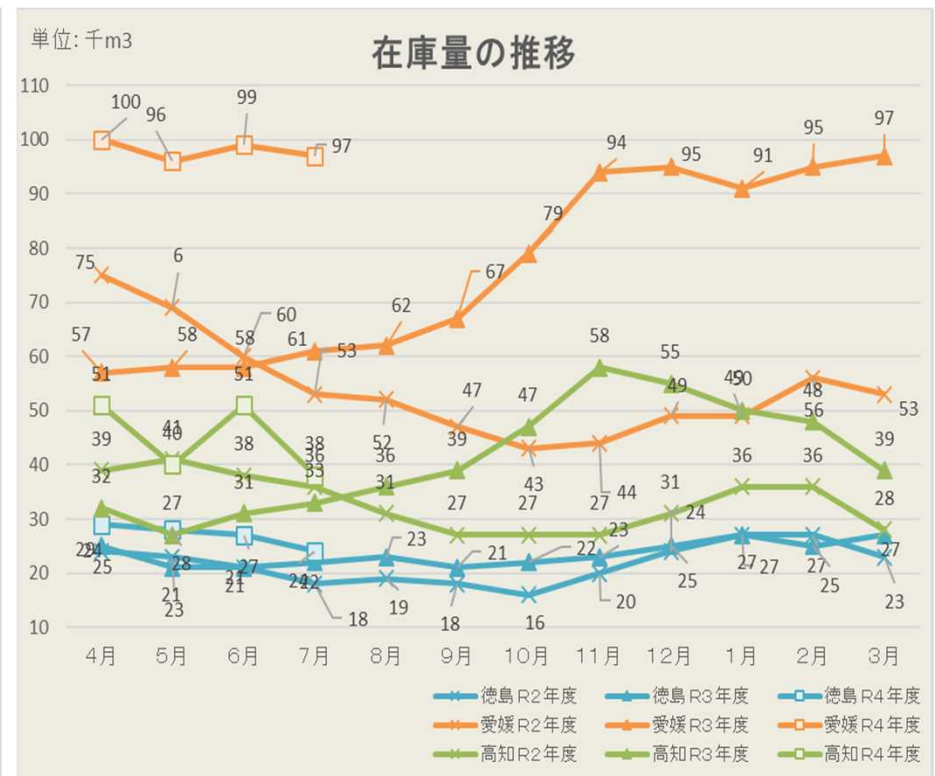
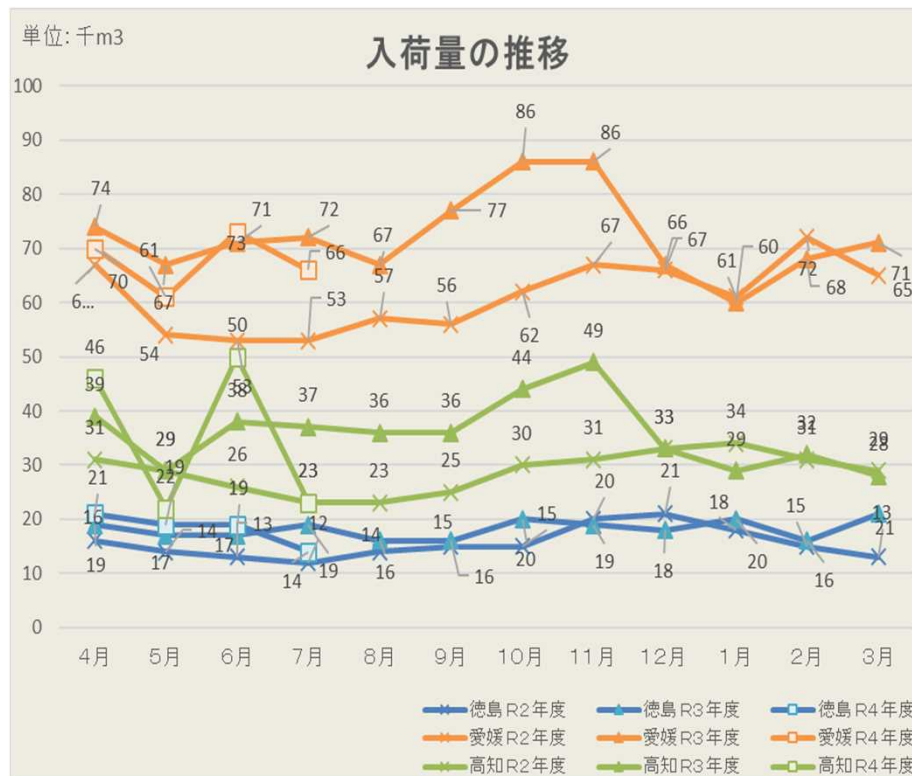
- 昨年の同時期と比べ、10%程出材は多い。
- 木材価格は値下がり傾向とはいえ、天候にも恵まれたことから、続けて出荷があったのではないか。
- 荷動きは、製材側の原木の在庫過多、製材品の動きの悪さから、年内は状況が悪いと予想。



II 管内における製材等の状況

1. 県別の製材用素材の入荷量及び在庫量の推移（令和2年度～令和4年度）

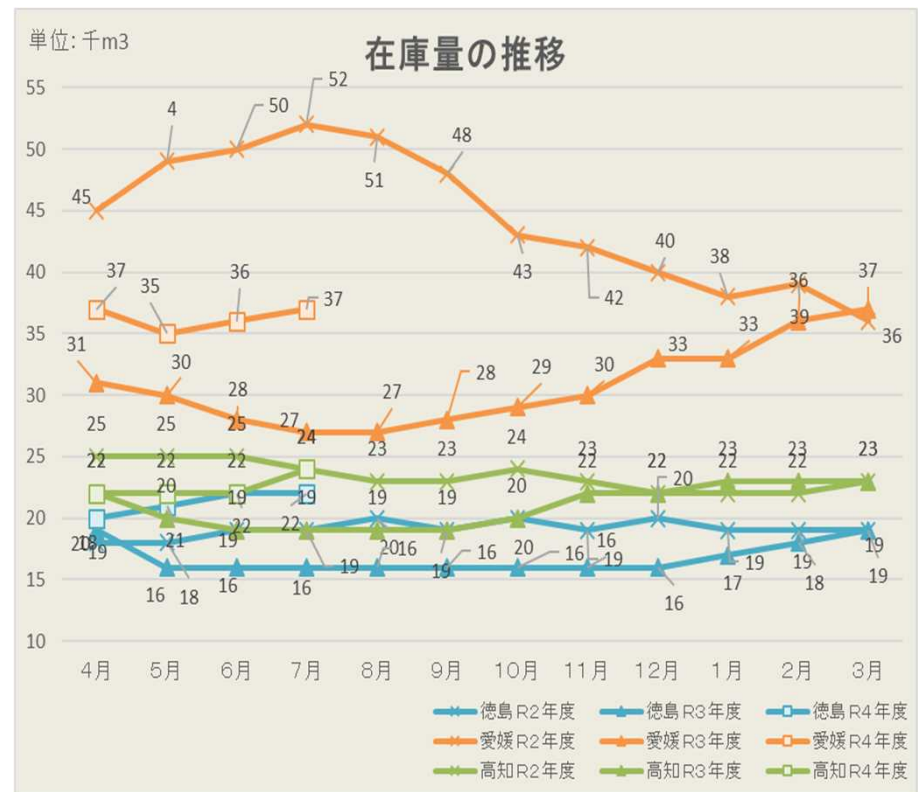
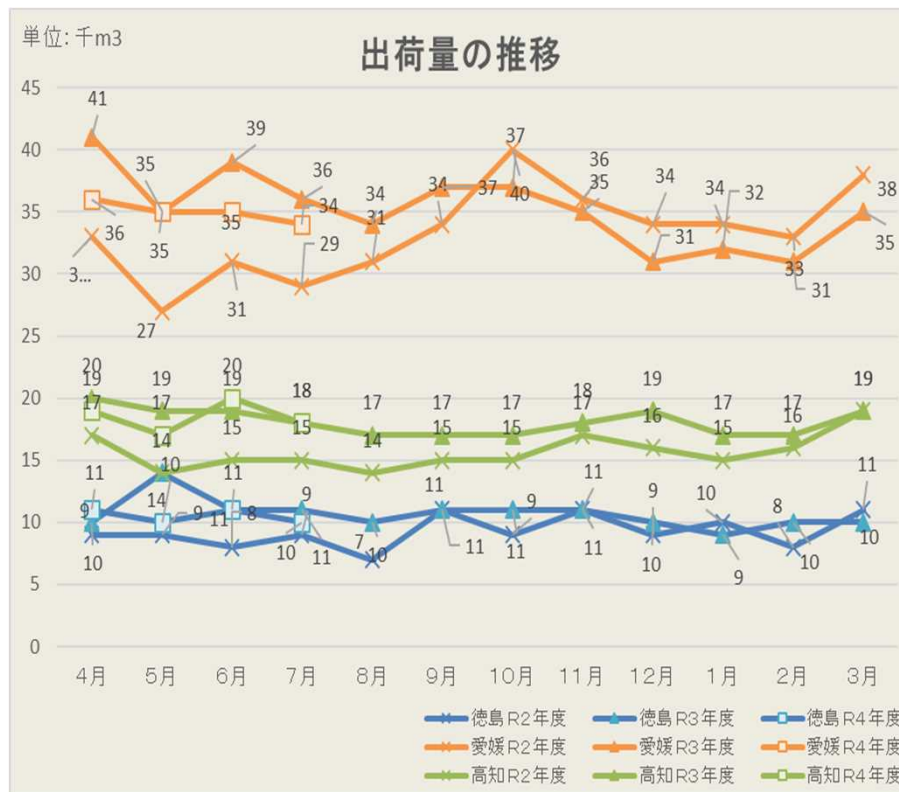
- ▶ 製材用素材の入荷量は、令和3年度は製材品の好調な動きによる素材の引き合いを背景に11月頃までは好調に推移。特に愛媛、高知県では大幅に増加。12月以降は各県ともに概ね例年並み。令和4年度は6月に一時増加したが7月は減少。
- ▶ 在庫量は、令和3年度は製材各社の積極的な丸太仕入れがあり9月頃からは例年を上回る傾向が続いた。令和4年度に入り減少傾向にあるが、愛媛県では高い水準が続く。



資料: 農林水産省「製材統計」

2. 県別の製材品の出荷量及び在庫量の推移（令和2年度～令和4年度）

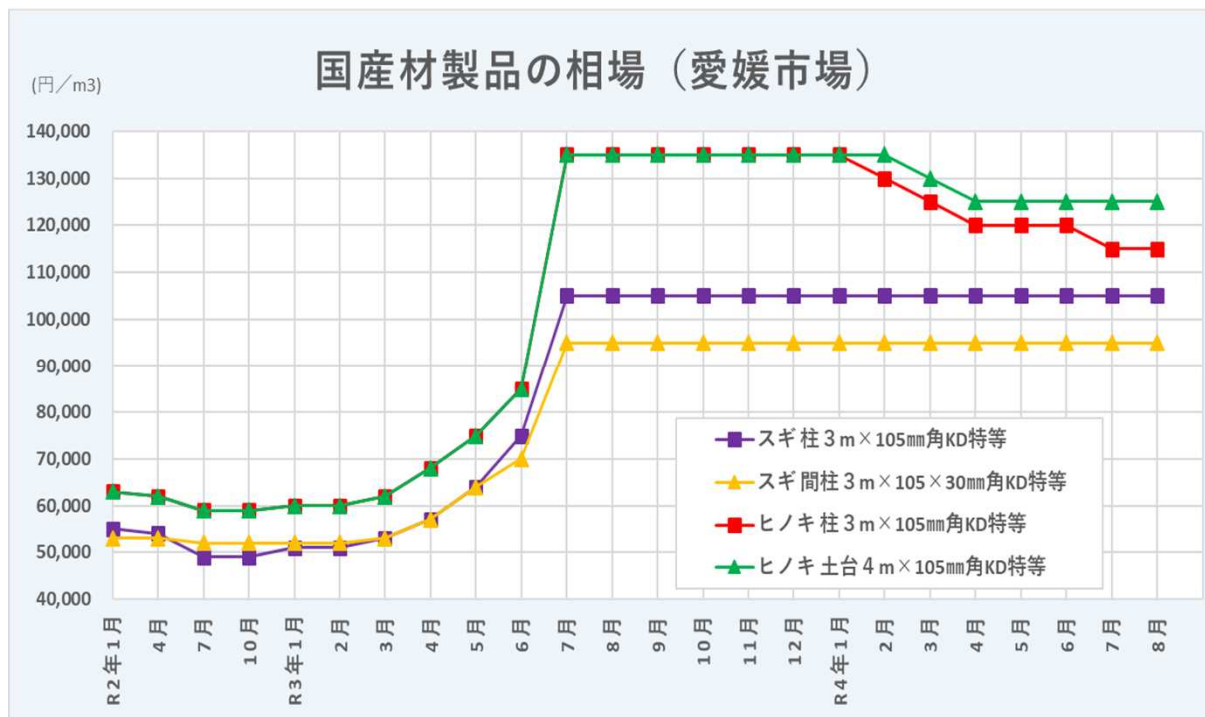
- 製材品の出荷量は、令和2年秋以降高い水準を維持してきたが、令和4年度は7月に入り各県ともに減少傾向がみられる。
- 在庫量は、令和3年は製品需要が好調だったことから大幅に減少したが、今年に入り増加傾向が続き、各県ともに前年同期に比べ大幅に増加。



資料: 農林水産省「製材統計」

3. 製材品価格の推移

- 令和3年は国産材への代替需要の高まりから、スギ・ヒノキともに構造材を中心とする品目で徐々に値を上げ、7月からは高値を維持した。
- 最近の傾向としては、一定の引き合いがあるスギ製品は荷動きも堅調で価格も横ばいで推移するが、ヒノキ製品は柱、土台等の構造材製品の動きが鈍く価格もジリ安展開。
- 愛媛市場においても同様の傾向がみられ、ヒノキ製品価格は、柱・土台ともに下落傾向。



国産材製品の相場（愛媛県）令和4年8月

円/m³

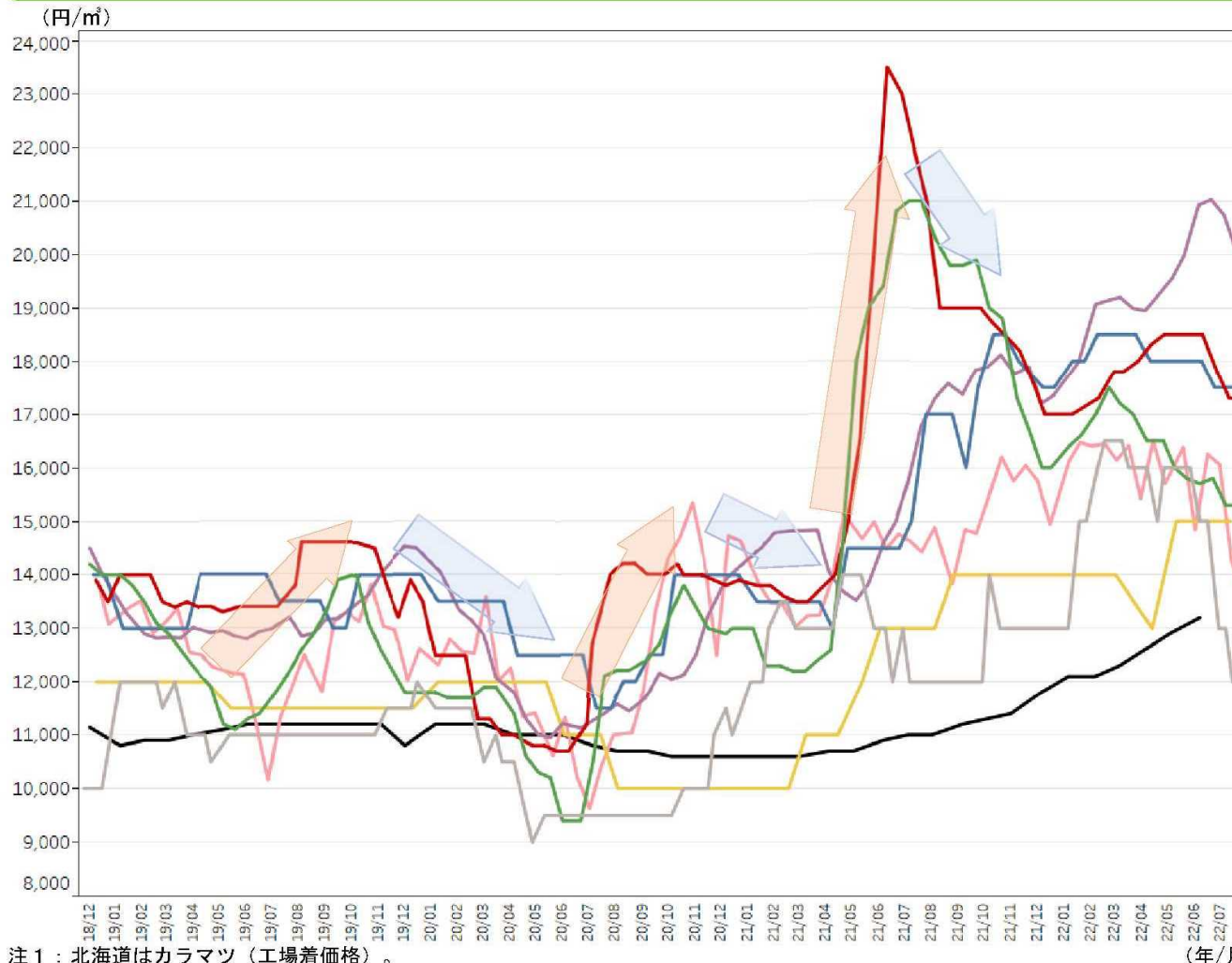
	品目	当月	前年 同月	前年 同月比
スギ	柱 3 m×105mm角KD特等	105,000	105,000	100%
スギ	柱 3 m×120mm角KD特等	95,000	95,000	100%
スギ	間柱 3 m×105×30mm角KD特等	95,000	95,000	100%
ヒノキ	柱 3 m×105mm角KD特等	115,000	135,000	85%
ヒノキ	柱 3 m×120mm角KD特等	110,000	130,000	85%
ヒノキ	土台 4 m×105mm角KD特等	125,000	135,000	93%
ヒノキ	土台 4 m×120mm角KD特等	120,000	130,000	92%

資料：日刊木材新聞

Ⅲ 全国の丸太価格の動向

ア スギ(全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- 2021年4月以降、いわゆるウッドショックにより価格が大きく上昇し、その後一部の地域で下落したが、全般的には、**2021年3月以前と比較すると高い水準で推移。**
- 直近のスギ原木価格は、**12,000円~20,030円**となっている。



(単位: 円)

都道府県	2022年直近*	前年同期	前年同期比
北海道	13,200	10,900	121%
秋田県	20,030	16,770	119%
栃木県	13,690	14,620	94%
長野県	15,000	13,000	115%
岡山県	12,000	12,000	100%
高知県	17,500	17,000	103%
熊本県	17,300	21,000	82%
宮崎県	15,300	21,000	73%

※北海道については6月、秋田県、栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については7月の値を使用。

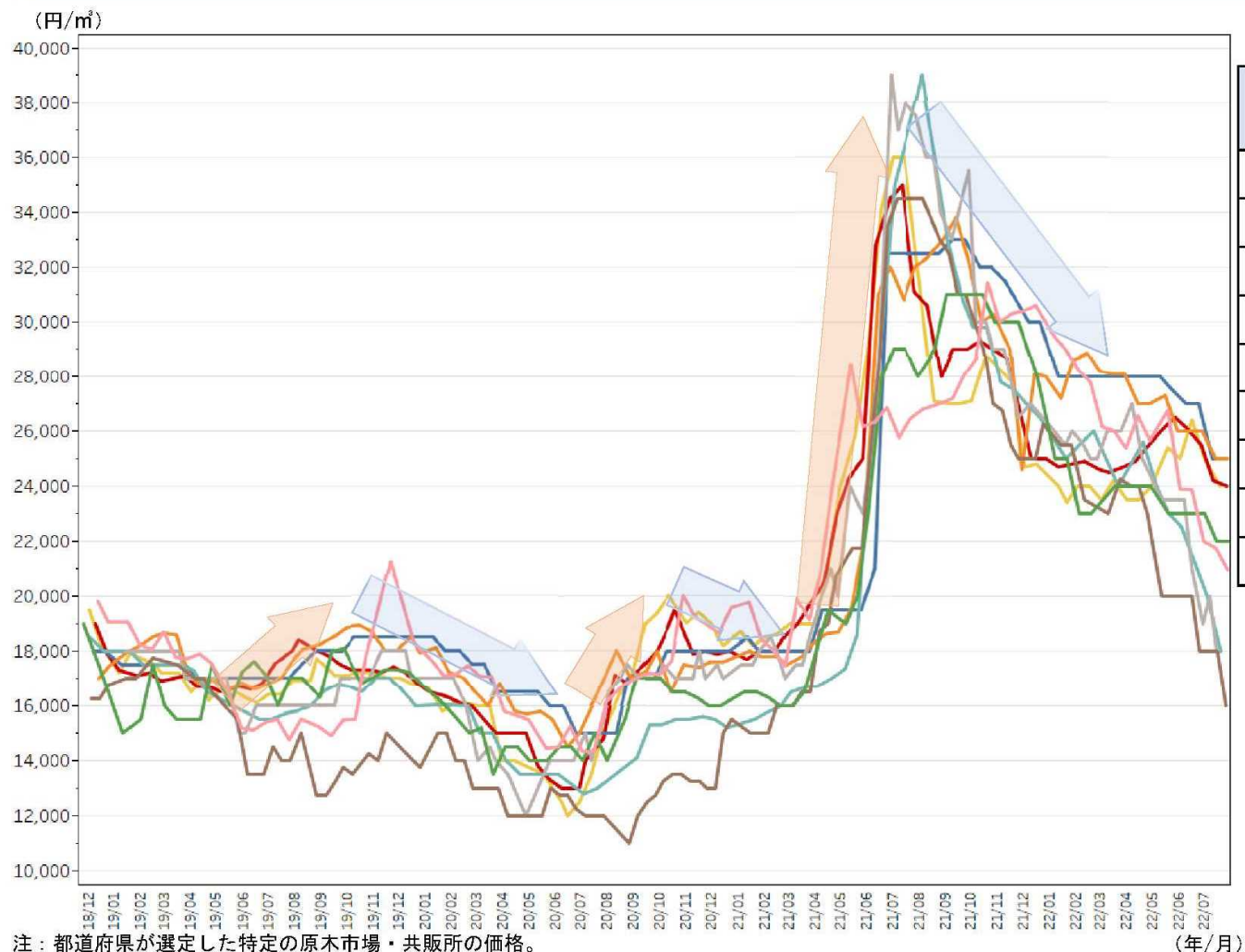
注1: 北海道はカラマツ(工場着価格)。

注2: 都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料: 林野庁木材産業課調べ

イ ヒノキ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

- ・ ヒノキにおいてもスギと同様に、2021年4月以降、価格が大きく上昇。その後下落傾向に転じているが、2021年3月以前と比較すると全般的に高い水準で推移。
- ・ 直近のヒノキ原木価格は、16,000円～25,000円となっている。



注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

(単位：円)

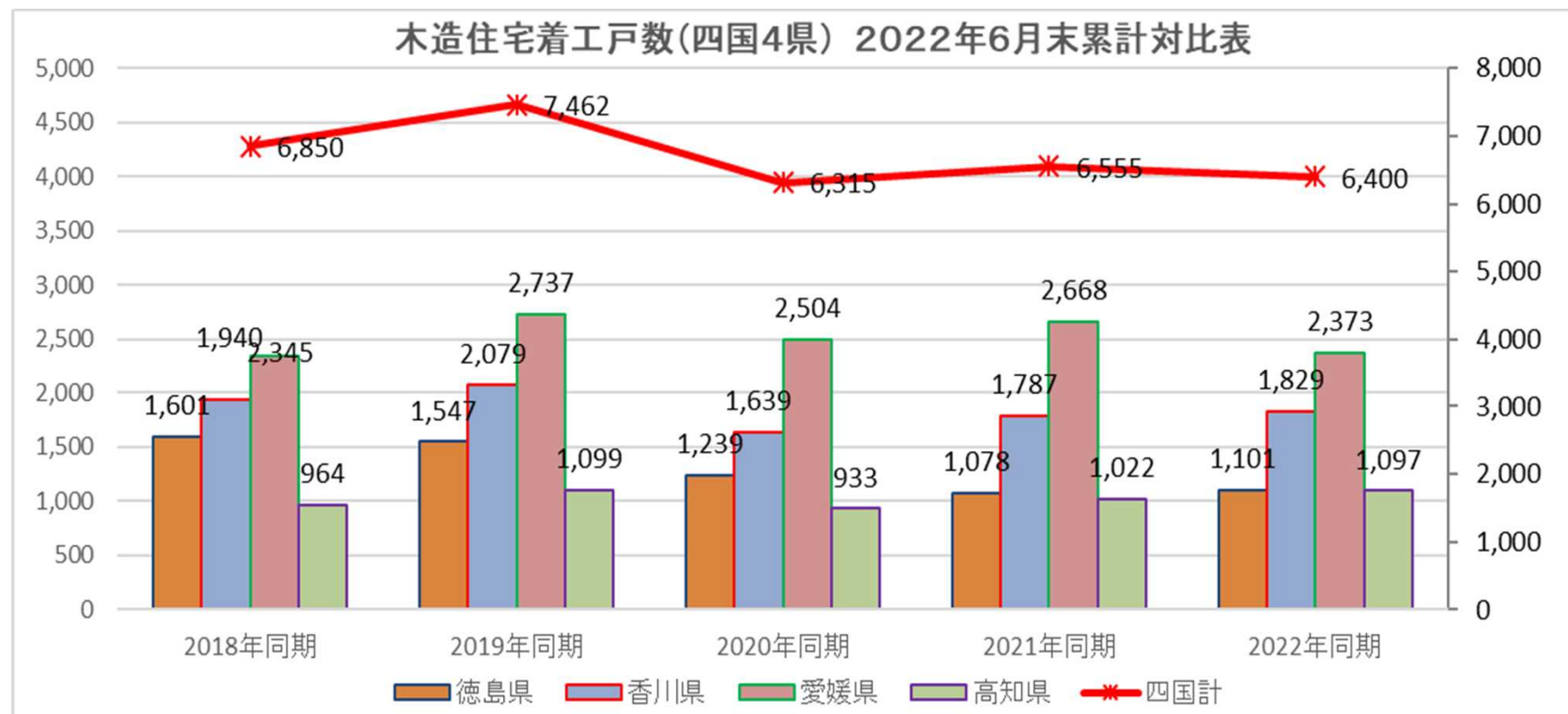
都道府県	2022年直近*	前年同期	前年同期比
栃木県	20,960	26,450	79%
静岡県	22,000	28,000	79%
兵庫県	16,000	34,500	46%
岡山県	18,000	38,000	47%
広島県	18,000	37,000	49%
愛媛県	25,000	32,000	78%
高知県	25,000	32,500	77%
熊本県	24,000	31,100	77%
大分県	24,000	36,000	67%

*各県7月の値を使用。

IV 住宅着工戸数

1 四国における木造住宅着工戸数の推移

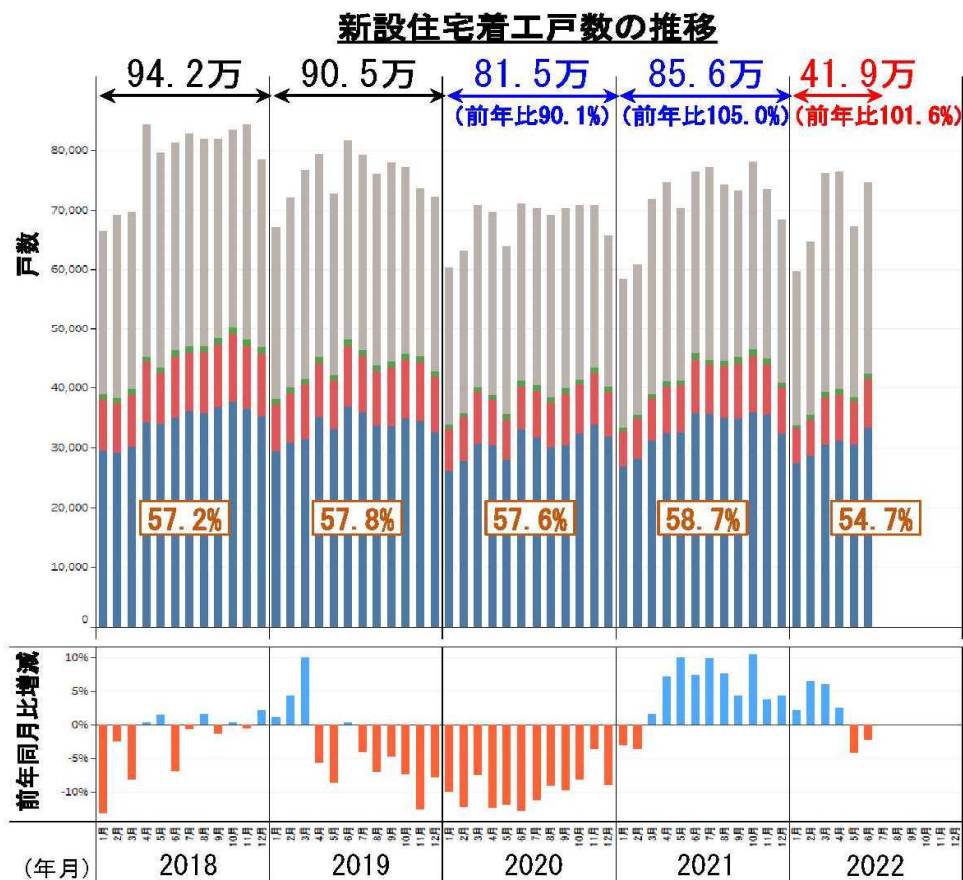
- 2022年6月末累計の四国における木造住宅着工戸数は6,400戸、前年同期比2%減少。
- 県別では、徳島・香川県は同比2%増、高知県は7%増となったが、愛媛県は11%減少した。



資料:国土交通省「住宅着工統計」

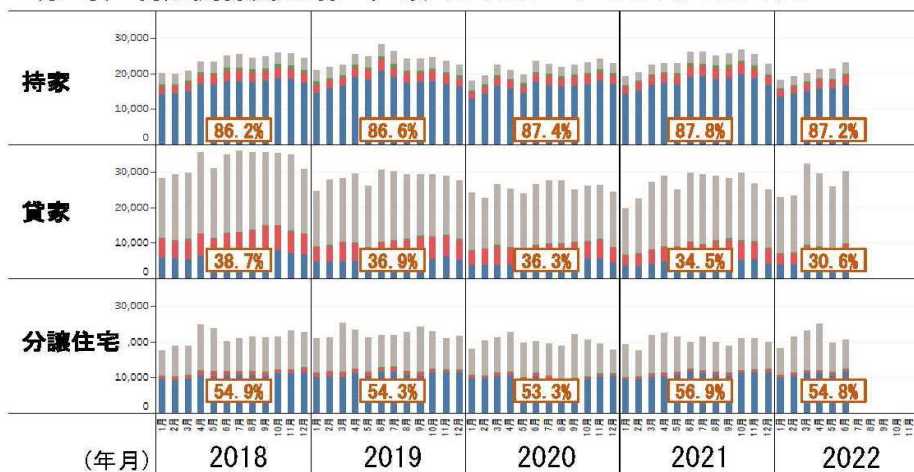
2 全国の住宅着工戸数の推移 (2018年1月～2022年3月)

- 2021年の新設住宅着工戸数は、**85.6万戸** (前年比105.0%)、このうち木造住宅は**50.2万戸** (同107.0%) となり、2020年からは増加したが、新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年の水準は下回った。
- 2022年1～6月の新設住宅着工戸数は、**41.9万戸** (前年同期比101.6%)、このうち木造住宅は**22.9万戸** (同97.0%)。



構造別の着工戸数	2022年 1～6月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	418,507	412,010	101.6%	398,683	105.0%
■非木造	189,673	176,192	107.7%	173,170	109.5%
■木造	228,834	235,818	97.0%	225,513	101.5%
■木造プレハブ	4,514	4,751	95.0%	5,131	88.0%
■2×4	42,959	44,122	97.4%	44,741	96.0%
■在来軸組	181,361	186,945	97.0%	175,641	103.3%
□木造率	54.7%	57.2%	-	56.6%	-

(参考) 利用関係別の着工戸数 (ただし、「給与住宅」を除く。)



「定常範囲を逸脱する動き」について

(資料2)

分析結果

(ア) 木材価格の前月比における逸脱の有無

調査月 令和4年4月～令和4年7月

【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

(イ) 木材価格の前月比における下落(上昇)の継続

調査月 令和4年4月～令和4年7月

【スギ中丸太】 ・ 6月に5ヶ月連続で上昇したが、7月は下落に転じた。

【ヒノキ中丸太】 ・ 4月までは下落が続いたが、以後は5ヶ月未満で推移。

(ウ) 木材価格の前年度同月比における逸脱の有無

調査月 令和4年4月～令和4年7月

【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

(エ) 木材価格の2ヶ年平均価格比における逸脱の有無

調査月 令和4年4月～令和4年7月

【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

(オ) 製材用素材の在庫率における逸脱の有無

調査月 令和4年4月～令和4年7月

【徳島県・愛媛県】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

【愛媛県・高知県】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会運営要領（平成25年7月30日付け25四資第19号）の2の（ア）から（オ）に係る確認

〔判断基準・指標〕

○ 過去10年間の月別データを基に、平均と標準偏差から95%の信頼区間を算出し、その区間を逸脱するか否かを確認

○ 使用データは、農林水産省の「木材価格」・「製材統計」を使用

○ 丸太価格、在庫率の変動

1 スギ中丸太価格（徳島県・愛媛県）

	逸脱上限値 6.01%		逸脱下限値 -5.84%						逸脱上限値 22.25%		逸脱下限値 -19.88%		逸脱上限値 18.07%		逸脱下限値 -16.59%	
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)			
	4月	5月	6月	7月	4月	5月	6月	7月	4月	5月	6月	7月	4月	5月	6月	7月
スギ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	0.00%	1.02%	1.24%	-4.75%	3	4	5	-1	20.19%	20.71%	6.68%	-3.16%	15.88%	14.44%	12.20%	4.74%

注1) 数値のアンダーラインは定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

2 ヒノキ中丸太価格（愛媛県・高知県）

	逸脱上限値 9.03%		逸脱下限値 -9.05%						逸脱上限値 39.59%		逸脱下限値 -37.78%		逸脱上限値 30.09%		逸脱下限値 -30.85%	
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)			
	4月	5月	6月	7月	4月	5月	6月	7月	4月	5月	6月	7月	4月	5月	6月	7月
ヒノキ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	-0.31%	3.40%	-0.62%	-0.44%	-8	1	-1	-2	21.03%	18.23%	3.97%	-23.17%	3.98%	4.08%	0.52%	-1.41%

注1) 数値のアンダーラインは定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

3 製材用素材の在庫量

	素材の在庫率			
	4月	5月	6月	7月
製材用素材(徳島・愛媛)	1.52	1.47	1.47	1.41
製材用素材(愛媛・高知)	1.48	1.35	1.48	1.32

逸脱上限値	逸脱下限値
1.89	0.80
1.58	0.88

注1) 数値のアンダーラインは定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 在庫率のデータは農林水産省の「製材統計」を使用し、算出したものである。